

アミラーゼ (Amy)

の検査について



日本臨床検査専門医会
池田 均

アミラーゼは膵臓で作られ、食べ物の消化を助ける酵素というタンパク質の一種です。膵臓に病気がある場合に、血液中で増えることが多いため、膵臓病の診断に使われています。ただし、アミラーゼは膵臓以外にも、耳下腺、顎下腺にも存在し、これらの部位の病気でも、血液中で増えることがあります。

●血液中アミラーゼが高い値であるとき、どのような膵臓の病気が考えられますか？

急にお腹、とくにお臍より上の部位、また、背中も痛くなることの多い急性膵炎では血液中アミラーゼが高くなることが知られています。腹痛が主な症状の病気の中でも、急性膵炎は重症となることが多く、この診断に血液中アミラーゼの測定は欠かせません。

一方、膵臓の炎症が長く続く慢性膵炎の場合

は、膵臓で作られるアミラーゼの量が少なくなることだって、必ずしも血液中アミラーゼが高くなるとはいえません。また、膵臓癌の場合も同様で、血液中アミラーゼが高くなることもあれば、むしろ低いこともあります。

つまり、血液中アミラーゼは膵臓病の中で、急性膵炎の診断には威力を発揮するものの、慢性膵炎や膵臓癌の診断には、その有用性は今ひとつといえます。

●血液中アミラーゼが高い値であるのに、膵臓は心配ないといわれました。どうしてでしょうか？

先に述べましたが、アミラーゼは膵臓以外の耳下腺、顎下腺でも作られます。このため、たとえば、耳下腺が急に炎症を起こす「おたふく風邪」のときに血液中アミラーゼを調べてみると高い値となっています。

同じアミラーゼでも膵臓で作られるタイプと耳下腺や顎下腺で作られるタイプでは微妙な違いがあり、これを別々に調べる方法（アイソザイムの測定）があるため、この方法を利用して膵臓から出てくるアミラーゼは増えていないと判断されたものと思います。

また、血液中のアミラーゼは最終的に尿から体の外に出ていきますが、腎臓の病気では尿に出ていく割合が減って、膵臓には異常がないのに、血液中アミラーゼが増加する場合があります。膵臓に心配がなくて、血液中のアミラーゼが増えている場合、これらの可能性が考えられます。

